

第56回日本臨床検査医学会学術集会を終えて

松野 一彦*§ 森山 隆則*

平成21年8月26日～29日に、札幌市コンベンションセンターにて、「拡大する検査の力」をテーマに第56回日本臨床検査医学会学術集会を開催いたしましたので、報告させていただきます。

まず、日本臨床検査医学会の歴史について簡単に触れたいと思います。昭和26年11月20日に結成された臨床病理懇談会を土台として、昭和29年に臨床病理学会へと改組され、同年10月30日に第1回臨床病理学会総会が東大医学部で開かれています。その後、昭和31年度から正式に名称が日本臨床病理学会と変更され学会規約も整備されました。当時の学会の様子を昭和60年に東京で第12回世界臨床病理学会が開催された記念に発行された「日本臨床病理学会史」で見ますと、臨床検査技術者養成の重要性が話し合われた記載が多く見られ、例えばそれまでの徒弟教育から1年間の病院実習を含む米国の技師学校(School of medical technology)をモデルとした教育が構想されています。この動きが昭和33年の衛生検査技師法の施行、昭和34年からの相次ぐ衛生検査技師養成所の設立へと繋がったと考えられます。日本臨床病理学会はその後発展し、平成12年11月3日に名称を日本臨床検査医学会と変更して現在に至っています。

当初の臨床検査の主体となるべき臨床検査技師の養成に捧げた情熱は、日本臨床検査医学会になった今でも受け継がれるべき課題と考えています。そういった意味でも臨床検査技師教育の場にいら

っしゃる先生方も積極的に日本臨床検査医学会に参加いただき、臨床検査の現場で働く皆さん達とともに、後輩の優秀な臨床検査技師を育てていくではありませんか。

さて第56回学術集会は、総参加者数1555名(有料参加者数1391名)と成功裡に終えることが出来ました。このうち学生・大学院生の参加者が100名と、正式な記録はありませんが今までで最も多くご参加いただいたのではないかと感謝しております。また一般演題も426題(口演351題、ポスター75題)ありましたが、このうち筆頭演者が学生・大学院生のものが50題と全体の11.7%を占めておりました。56回の大会中、臨床検査技師養成施設の教員が大会長を務めた初めての学術集会であったことから、皆様方が積極的に学生の発表を促していただいたお陰であると感じていますが、今後の日本臨床検査医学会のあるべき姿および臨床検査技師教育の歩むべき道のような気もしております。臨床検査技師を目指す学生・大学院生が、臨床検査医学における我が国の最先端の研究に触れることができ、忙しい仕事の合間を使って研究を進めている先輩の臨床検査技師の姿を目の当たりにし、さらに自分の研究を検査の現場に働く方々の前で発表してご批判を仰げる場というのはこの日本臨床検査医学会を措いてないと思うからです。

さて、第56回学術集会では、例年と同様に日本臨床検査学教育学会と共催でシンポジウムを開

*北海道大学大学院保健科学研究院 § kazu@hs.hokudai.ac.jp

表 1 日本臨床検査学教育学会共催シンポジウム

「チーム医療に必要な臨床検査技師教育」	
司会 千葉科学大学大学院危機管理研究科	三村 邦裕
北海道大学大学院保健科学研究院病態解析学分野	小林 清一
1. チーム医療教育の実際～群馬大学における実践と評価～	
群馬大学医学部保健学科	小河原はつ江
2. チーム医療を視野に入れた感染制御関連カリキュラム	
杏林大学保健学部臨床検査技術学科	森田 耕司
3. チーム医療における医療情報とマネジメントの役割	
北海道大学大学院保健科学研究院・北海道大学病院医療情報企画部	
小笠原克彦	
4. 病院検査室における臨床検査技師の役割とチーム医療	
東海大学医学部基盤診療学系臨床検査学	○宮地 勇人、浅井さとみ
東海大学医学部附属病院臨床検査科	大島 利夫

表 2 第 56 回日本臨床検査医学会学術集会の主なプログラム

会長講演：「血小板検査・研究の歩み」
北海道大学大学院保健科学研究院・北海道大学病院検査・輸血部 松野 一彦
特別講演 1：「医療の質を測り改善する Quality Indicator (QI)」
聖路加国際病院 福井 次矢
特別講演 2：「 <i>Helicobacter pylori</i> 感染の診断とその臨床応用」
北海道大学病院 浅香 正博
特別講演 3：「臨床グライコミクスによる新しい疾患マーカー分子の探索」
北海道大学大学院先端生命科学研究院 西村紳一郎
招請講演 1：「標準化をめぐる世界の動向－ISO15189、その他のアプローチ」
WHO(世界保健機構) 小島 和暢
招請講演 2：「New directions in Laboratory Medicine」
The College of American Pathologists (CAP) Schwartz Jared N.
教育講演 1：「抗リン脂質抗体症候群と臨床検査」
北海道医療大学歯学部内科学 家子 正裕
教育講演 2：「血清酵素検査の標準化－日本医師会精度管理調査結果からみた現状」
浜松医科大学医学部臨床検査医学 前川 真人
教育講演 3：「気道感染症の網羅的遺伝子検査法の新展開」
岐阜大学大学院再生医科学専攻再生分子制御学病原体制御分野 江崎 孝行
教育講演 4：「悪性リンパ腫の病理を読み解く－WHO 分類が伝えるメッセージ」
北海道大学病院病理部 松野 吉宏
教育講演 5：「野口英世先生の血清免疫学的研究」
北福島医療センター 吉田 浩
教育講演 6：「悪性腫瘍遺伝子検査の動向と利用法：携帯検査に付加する情報」
東北福祉大学健康科学部医療経営管理学科 ○船渡 忠男、竹田 真由
教育講演 7：「循環器疾患の診断に役立つ生理検査」
高知大学医学部病態情報診断学 杉浦 哲朗

催いたしました。千葉科学大学大学院危機管理研究科の三村邦裕先生と北海道大学大学院保健科学研究科病態解析学分野の小林清一先生のご司会の下で、「チーム医療に必要な臨床検査技師教育」のテーマで、**表 1**のように4人の先生方に、チーム医療の重要性とその教育の取り組み方をご紹介いただき、熱心な討論が行われました。この日本臨床検査学教育学会との共催シンポジウムは、日本臨床検査医学会会員の臨床検査専門医、臨床検査技師および検査関連企業の皆様方に現在の臨床検査技師教育の現状や抱えている問題点などを知っていただき、共に臨床検査技師教育を考えていただく唯一の場でありますので、ぜひ今年度以降の臨床検査医学会学術集会でも継続していただけるよう期待しております。

この他、第 56 回学術集会では、**表 2**のように

会長講演 1, 特別講演 3, 招請講演 2, 教育講演 7, シンポジウム 11 の他、Reversed CPC、日本検査血液学会と共催の技術セミナー、日本臨床検査自動化学会と共催の POC セミナー、EBLM 委員会主催の教育セミナーが開催されました。第 56 回学術集会にご参加いただいた皆様方にこの場を借りて心から御礼を申し上げます。

最後になりますが、本年度の第 57 回日本臨床検査医学会学術集会のご案内を申し上げます。第 57 回集会は 9 月 9 日(木)～12 日(日)に本学会の理事長であります帝京大学医学部臨床病理学の宮澤幸久教授を会長として、「臨床検査の価値—その評価・そして未来に向けて」をテーマに東京新宿の京王プラザホテルにて開催されます。奮ってご参加下さい。